

三豊市第 2 次総合計画 基本構想（骨子案）

＜基本構想＞

序章 総合計画とは

1. 計画の役割・意義
2. 計画の構成
3. 計画の期間
 - (1) 基本構想
 - (2) 基本計画
 - (3) 実施計画

1章 みとよのまちづくり

1. 体系図
2. まちの将来像
3. 基本目標
4. 基本方針
5. まちづくりマップ(ゾーニング)

2章 みとよの「いま」を知る

1. 市民アンケート
 - (1) 愛着度
 - (2) 定住意向
 - (3) 満足度と重要度
2. 子ども(小中学生)アンケート
 - (1) 愛着度
 - (2) 定住意向
 - (3) まちの将来像
3. まちづくりカフェ
4. ビッグデータ分析
 - (1) 出生・死亡(自然増減)と転入・転出(社会増減)の推移と人口推計
 - (2) 地域別にみた流入者数・流出者数(通勤者・通学者)
 - (3) 業種別売上高

序章 総合計画とは

1. 計画の役割・意義

今後 10 年間ににおける三豊市を取り巻く社会情勢の変化の中、直面していくことが予想される課題に対し、市民の生活を守り、豊かさを追求していく上で、三豊市の進むべき方向や戦略を明らかにすることを目的に総合計画を策定しています。

総合計画は、三豊市が目指す「まちの将来像」を示し、その実現に向けての総合的かつ計画的なまちづくりの指針であり、市政運営の最上位計画となるものです。

三豊での暮らしがより心豊かに人を育み、未来に夢を抱くことができるまちであり続けるためのまちづくりガイドラインとして位置づけられています。

2. 計画の構成と期間

本計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」で構成しています。

(1) 基本構想

本市が目指す「まちの将来像」とその実現のための基本目標や基本的施策など、市政運営の基本的な方針を示します。

2019 年度から 2028 年度までを計画期間とします。

(2) 基本計画

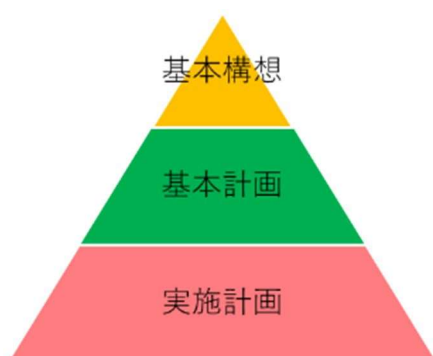
基本構想に基づき、各分野で取り組むべき施策の内容や成果指標などを示します。

2019 年度から 2023 年度までの 5 年間を前期基本計画、2024 年度から 2028 年度までの 5 年間を後期基本計画の計画期間とします。

(3) 実施計画

基本計画に示す事業について、具体的な事業内容や財源を示すものとして策定します。

当年度を含む 3 年間の計画として、毎年度策定することで事務を見直しています。



(年度)	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
基本構想	10年間											
基本計画	前期5年間					後期5年間						
実施計画		第1期3年間										
			第2期									
				第3期								
					第4期							
						第5期						
							第6期					
								第7期				
									第8期			
										第9期		
											第10期	

1章 みとよのまちづくり

1. 体系図



2. まちの将来像

「One Mitoyo ～心つながる豊かさ実感都市～」

本市は、燧灘・備讃瀬戸をのぞむ美しい海岸線、みどり輝く讃岐山脈と市内を流れる財田川・高瀬川、そして豊かな田園空間が広がる三豊平野など、海から山までの多彩で特色ある自然があります。これらの自然とともに築き上げられてきた歴史や文化は、7つの地域にそれぞれ個性あふれる市民活動を生み、たくさんの賑わいをもたらしました。

一方、本市では人口減少の進行や社会情勢の変化により、今後いくつもの壁に直面することが予想される中、7つの地域が寄り添い、すべての市民が豊かさを実感できるまちを将来の姿として目指しています。これは、市民一人ひとりが互いの手と手を取り合い、“心をひとつ”にすることを意味します。

豊かなふるさとで育まれた子どもたちが「未来」に自由な夢を描くことができるまちを、「今」を生きる私たちみんなの手でつくっていきましょう。

3. 基本目標

三豊市の将来像実現のために、4本の柱を基本目標として設定します。
また、目標達成に向けて展開する主要事業分野を示しています。



4. 基本方針

まちづくりを行ううえでの基礎となる考え方として、2つの基本方針を設定します。

基本方針①「市民が主役のまちづくり」

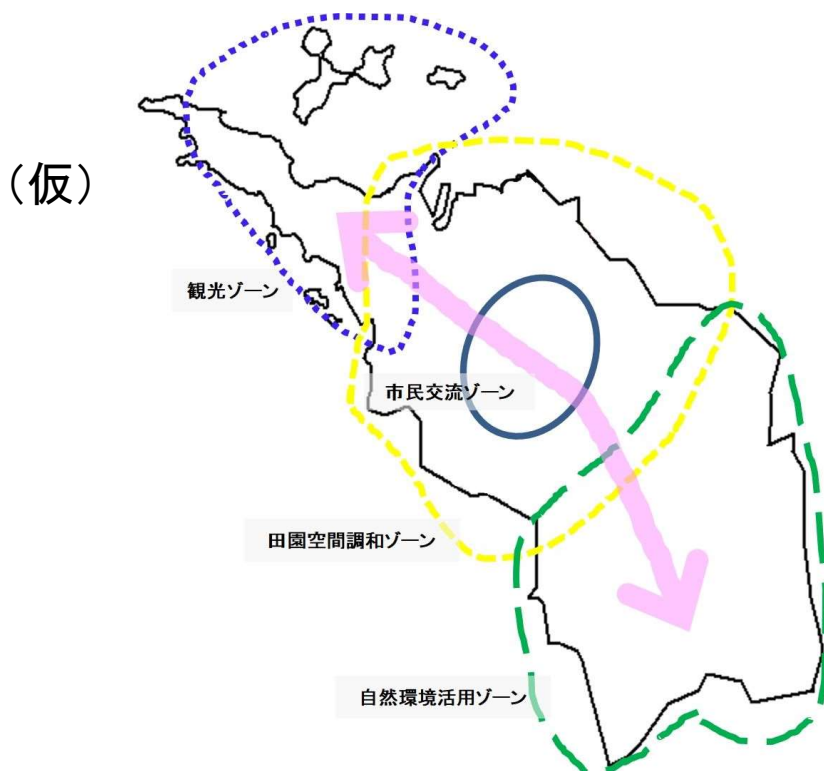
地域内分権をさらに推進し、市民や各種団体等が、地域における役割を認識し、主体性を持った地域活動のもと、市民が主役としてまちづくりを行っていきます。

基本方針②「効率的健全な行財政運営」

「選択と集中」の考え方のもと、市民ニーズと社会情勢に沿う事業の選択を行い、効率的な行財政運営を目指します。また、財源の確保や人員および公共施設等の適正配置に努め、将来に渡り持続可能なまちづくりに取り組んでいきます。

5. まちづくりマップ(ゾーニング)

将来に渡り持続可能なまちづくりのためには、市全体をひとつの区域ととらえてデザインしていくことが必要となってきます。旧町の枠にとらわれることなく、地域性や資源を活かしたまちづくりを行うことをゾーニングと呼び、ここではまちづくりの計画を地図で表しています。



2 章 みとよの「いま」を知る

将来のまちをつくるうえで、常に市民ニーズや社会情勢の変化には敏感でなければなりません。「みらい」を描くためには、「いま」を知ることによって時代の動きを把握し、課題解決やまちづくりの方向性について検討することが非常に重要です。

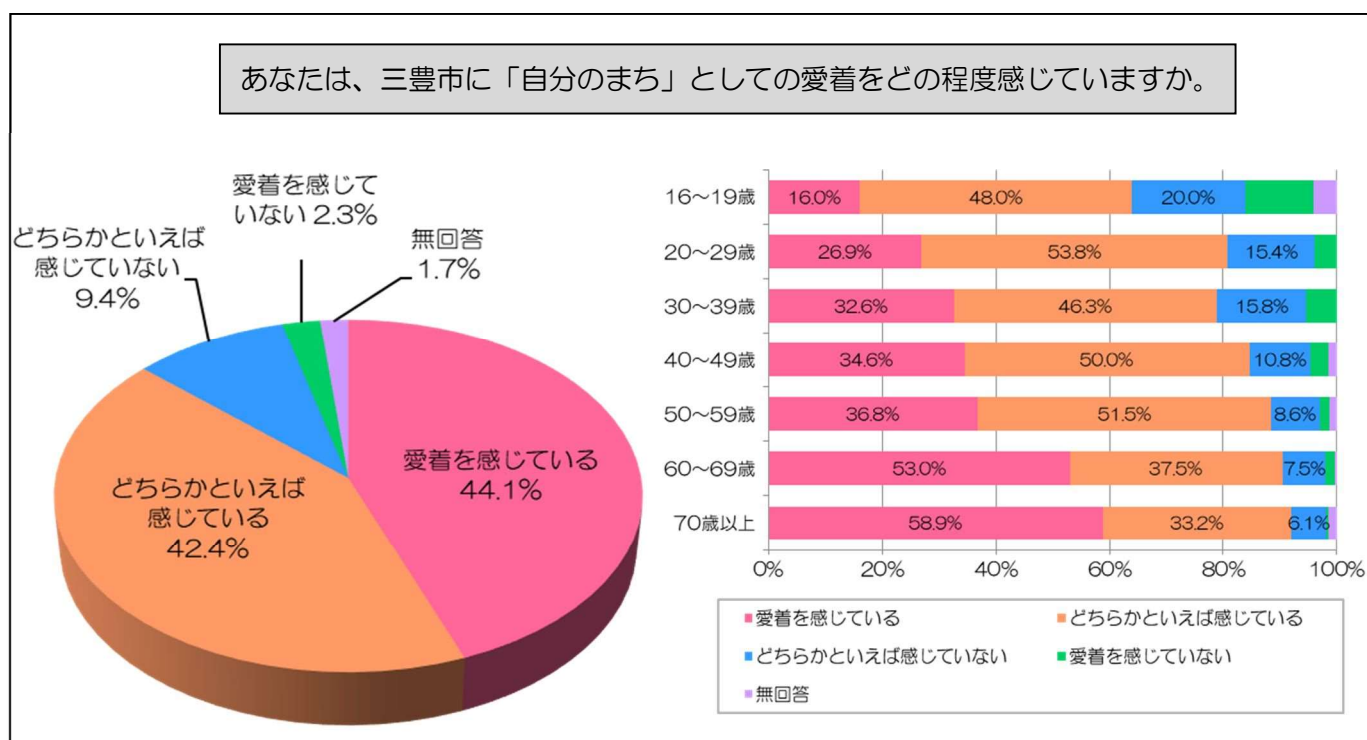
ここでは、市民の皆さんに市民アンケートやまちづくりカフェ(市民会議)でお伺いした現時点でのまちの課題や将来像についてまとめています。

1. 市民アンケート

市内在住の 16 歳以上 2,500 名を対象に市民アンケートを実施しました。愛着度や定住意向、まちの現状と期待するまちの将来像などについての質問に対し、940 人から回答をいただきました。(回答率:37.6%)

(1) 愛着度

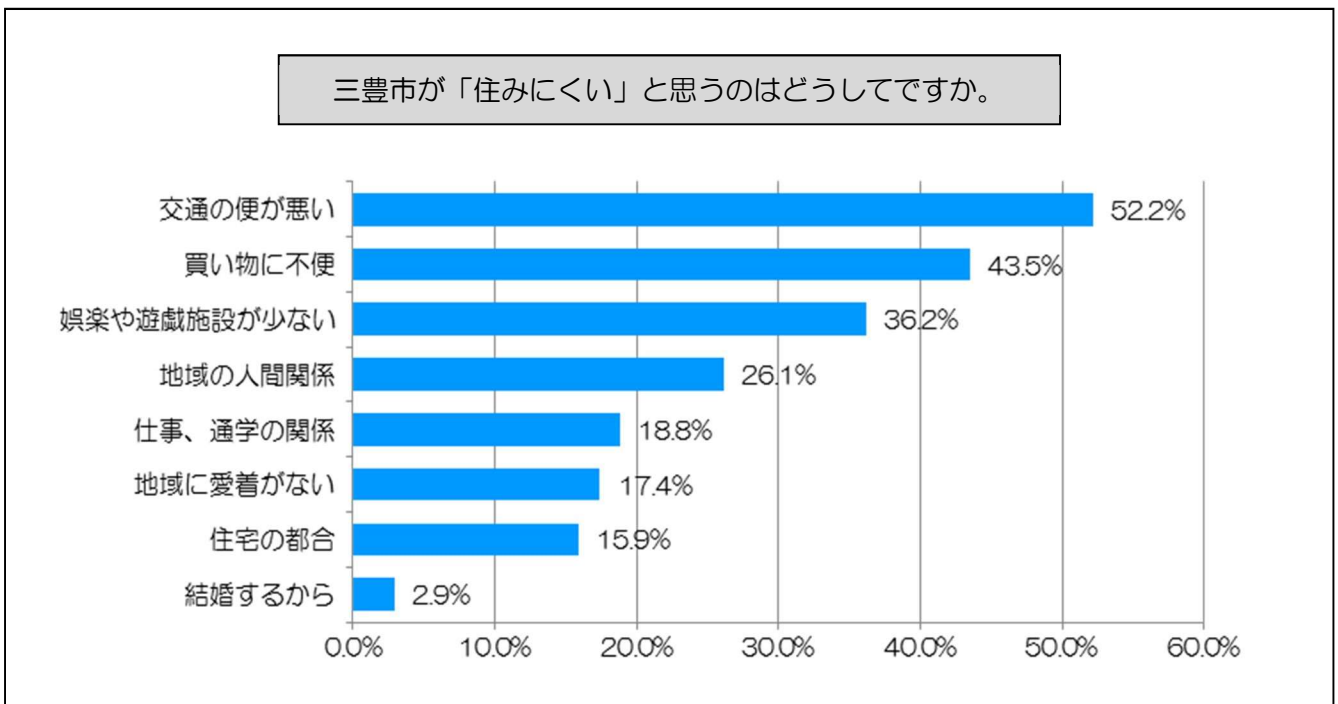
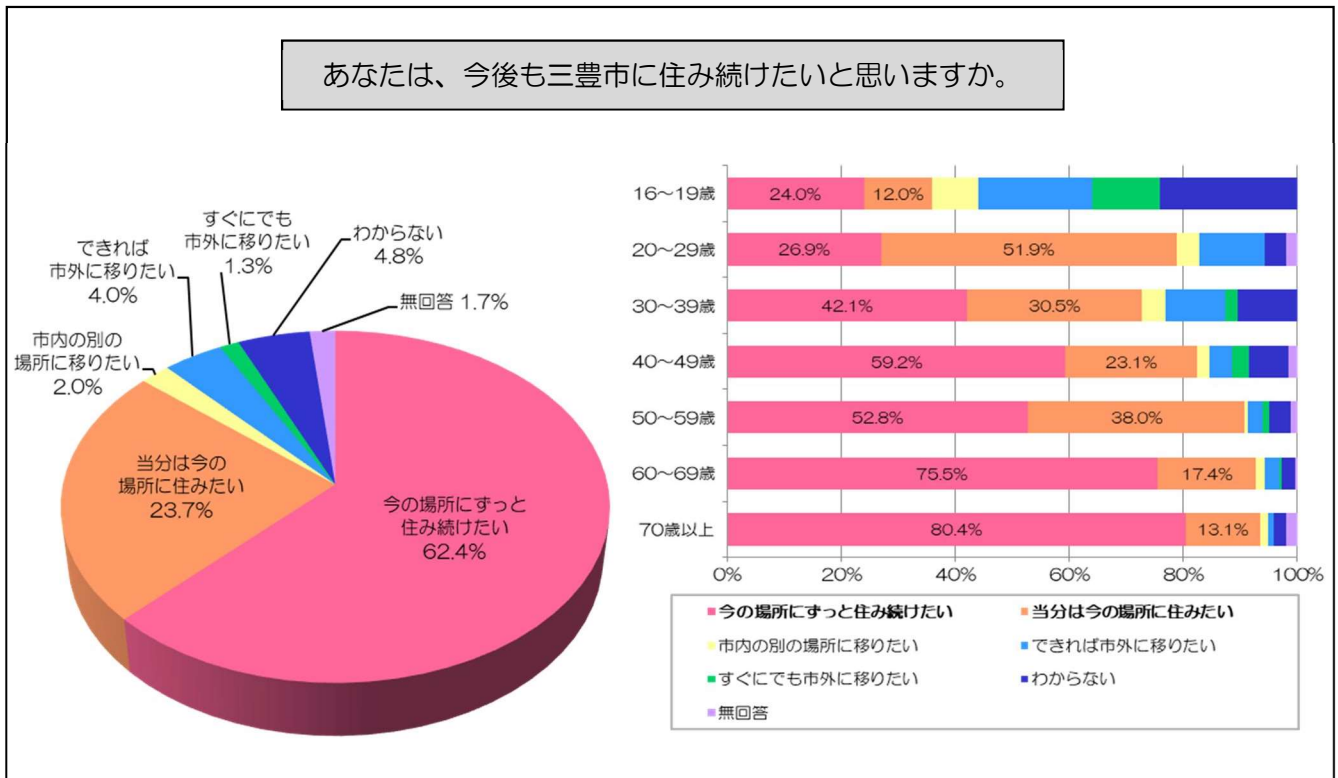
「愛着を感じている」、「どちらかといえば感じている」を合わせた回答は、全体の 86.5%で、これは、2013 年 3 月に実施したアンケートから約 7%上昇しており、以前より魅力あるまちづくりが進んでいることがうかがえます。しかし、市民全体としてまちへの愛着度は高いものの、年齢別に見てみると、年齢層が低くなるにつれて愛着度が下がる傾向にあります。



(2) 定住意向

「今の場所にずっと住み続けたい」、「当分の間は今の場所に住みたい」を合わせた回答は、全体の 86.1%となり、9 割近くの人が今後も三豊市に住みたいと感じています。愛着度と同様に年齢が低いほど、「住みたい」と思う割合が小さくなっています。

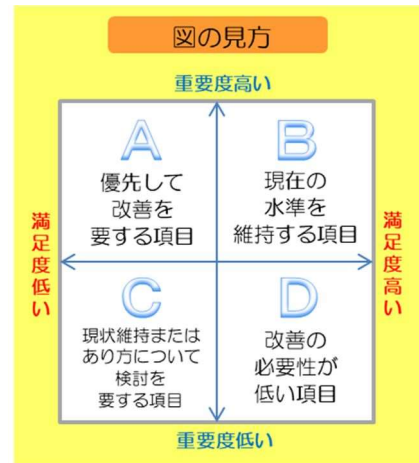
一方で、住みにくいと思う理由は、「交通の便が悪い(52.2%)」、「買い物に不便(43.5%)」、「娯楽や遊戯施設が少ない(36.2%)」が主なものとなっています。



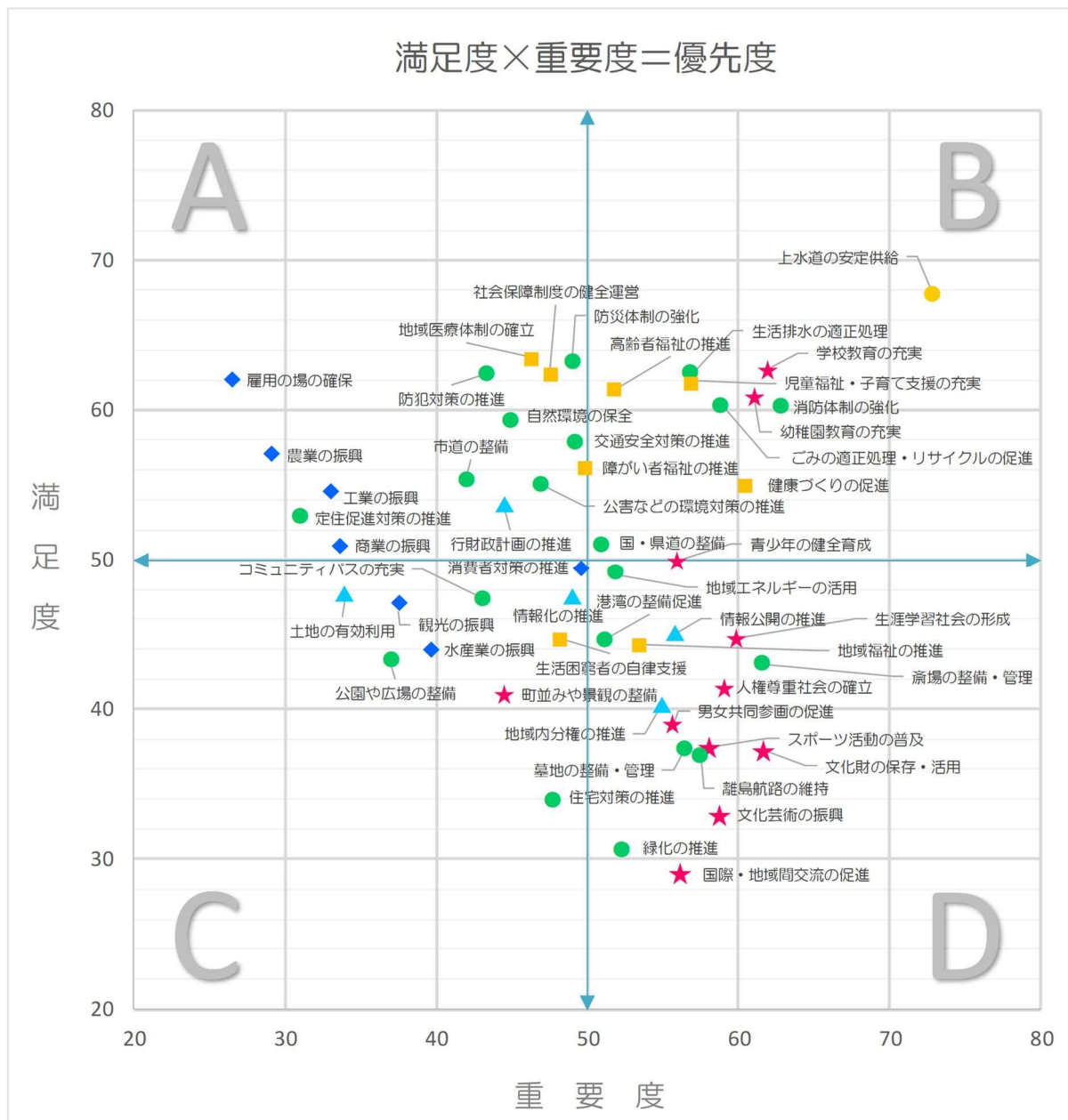
(3) 満足度と重要度

まちの各環境に関して、現在における満足度と重要度をお聞きしました。満足度が低く、重要度が高いものとして、「雇用の場の確保」、「農業の振興」、「工業の振興」、「定住促進対策の推進」、「防犯対策の推進」などがあげられ、これらは今後優先的に取り組むべき課題施策であることがみえてきます。

その他、満足度と重要度がともに高いものについては、現在の水準を維持し、また重要度の低いものについては、現状維持または改善の検討が必要となっています。



◆	産業・雇用分野
★	教育・文化分野
■	健康・福祉・医療分野
●	生活基盤分野
▲	市民自治・行財政分野



A	満足度低×重要度高 優先して改善を要する項目	◆	雇用の場の確保	B	満足度高×重要度高 現在の水準を維持する項目	■	高齢者福祉の推進
		◆	農業の振興			■	障がい者福祉の推進
		◆	工業の振興			●	生活排水の適正処理
		●	定住促進対策の推進			■	児童福祉・子育て支援の充実
		●	防犯対策の推進			●	ごみの適正処理・リサイクルの促進
		■	地域医療体制の確立			★	学校教育の充実
		●	市道の整備			●	国・県道の整備
		●	自然環境の保全			★	青少年の健全育成
		◆	商業の振興			●	上水道の安定供給
		■	社会保障制度の健全運営			■	健康づくりの促進
		●	防災体制の強化			●	消防体制の強化
		▲	行財政課計画の推進			★	幼稚園教育の充実
		●	公害などの環境対策の推進			★	文化財の保存・活用
		●	交通安全対策の推進			★	文化芸術の振興
C	満足度低×重要度低 現状維持またはあり方について検討を要する項目	▲	土地の有効利用	D	満足度高×重要度低 改善の必要性が低い項目	★	国際・地域間交流の促進
		◆	観光の振興			★	スポーツ活動の普及
		●	公園や広場の整備			★	人権尊重社会の確立
		●	コミュニティバスの充実			●	離島航路の維持
		◆	水産業の振興			●	斎場の整備・管理
		◆	消費者対策の推進			●	緑化の推進
		●	住宅対策の推進			●	墓地の整備・管理
		■	生活困窮者の自律支援			★	男女共同参画の促進
		★	町並みや景観の整備			★	生涯学習社会の形成
		▲	情報化の推進			▲	地域内分権の推進
				▲	情報公開の推進	■	地域福祉の推進
				●	港湾の整備促進	●	地域エネルギーの活用

◆産業・雇用分野

■健康・福祉・医療分野

▲市民自治・行財政分野

★教育・文化分野

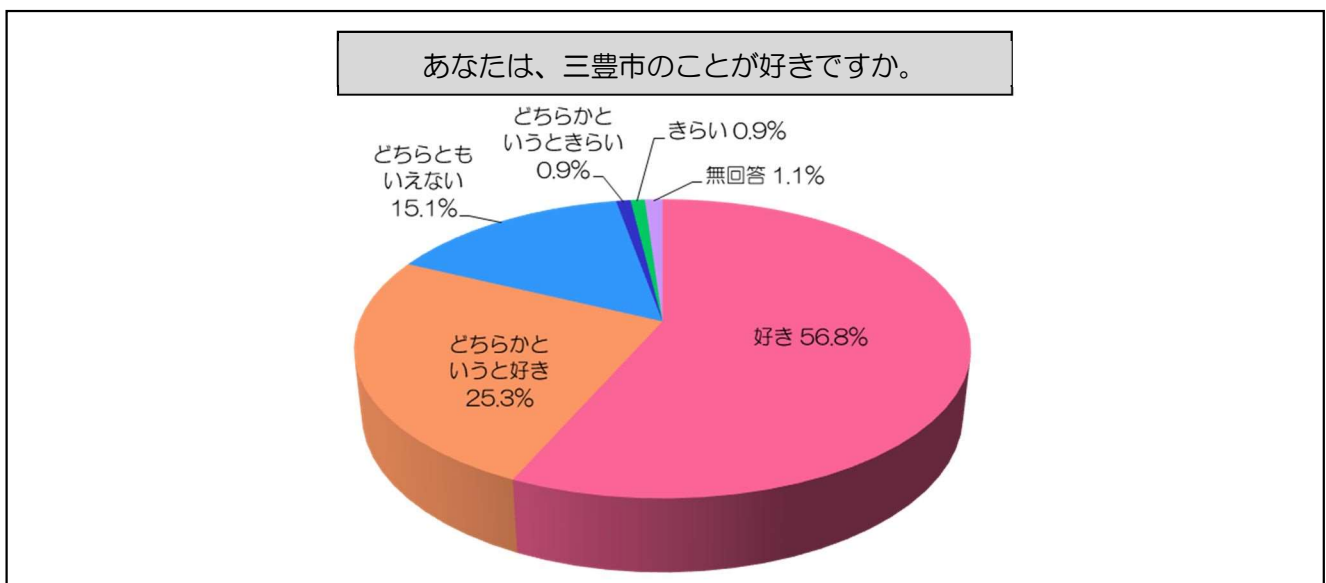
●生活基盤分野

2. 子ども(小中学生)アンケート

市内の小学校4学年から6学年児童及び中学校全学年生徒(ただし、組合立三豊中学校については、市内に住所を有する生徒)計 3,290 名に対し、「将来の三豊市にのぞむこと」をテーマにアンケート調査を実施し、3,127 名からご回答をいただきました。

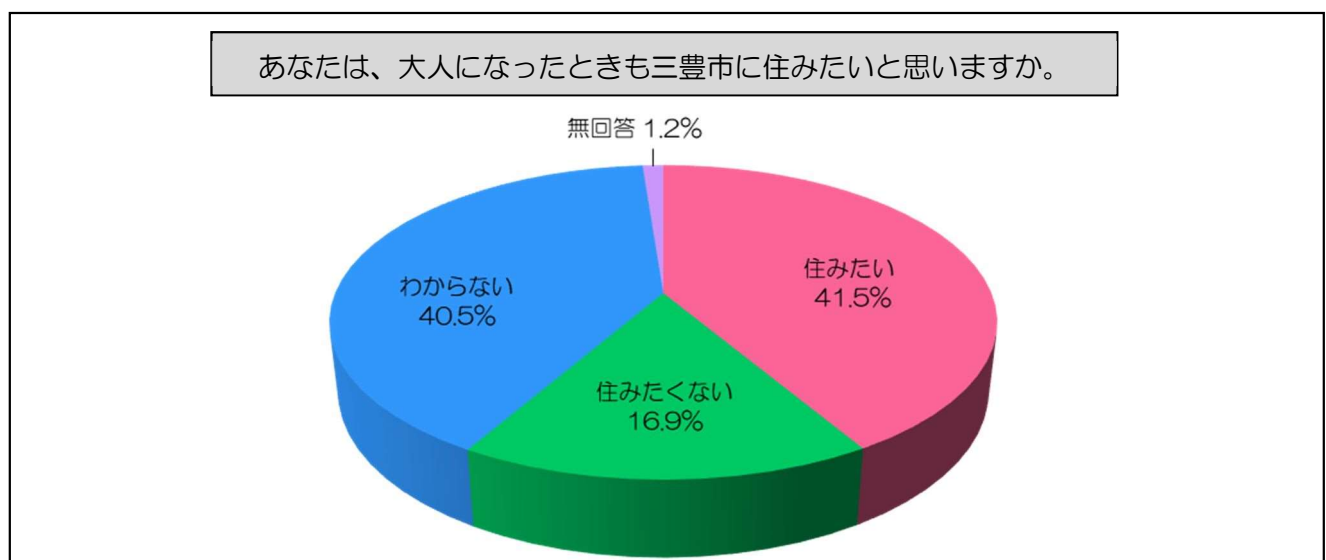
(1) 愛着度

「好き」、「どちらかという好き」と回答したのは、全体の 82.1%で市民アンケートと同様に高い愛着度をうかがうことができます。



(2) 定住意向

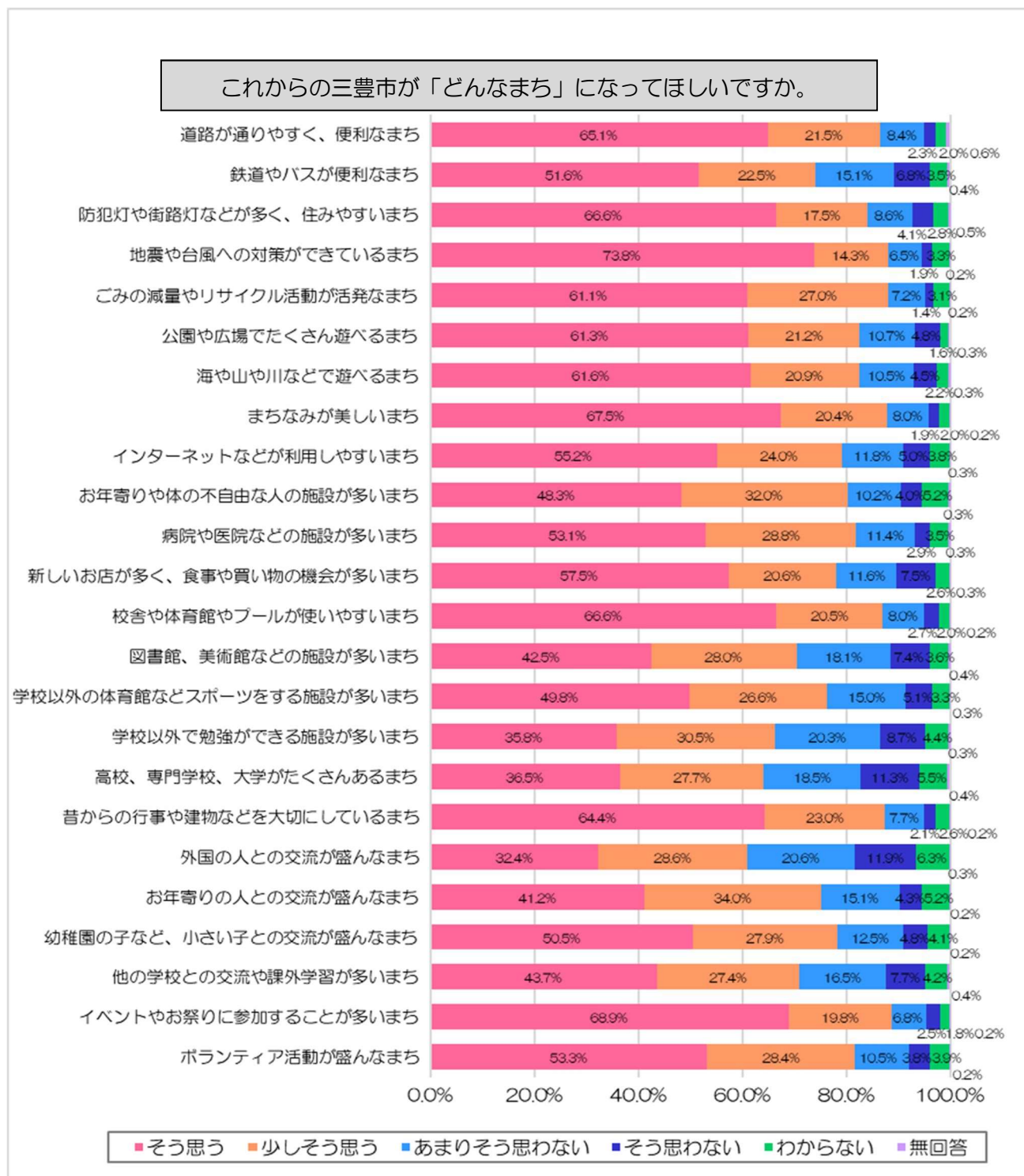
「住みたい」が 41.5%と高い割合を占めるものの、「住みたくない」が 16.9%、「わからない」が 40.5%となっており、好きではあるが、将来的な定住意向は高くないことをうかがうことができます。



(3) まちの将来像

子どもたちが期待する三豊市の将来像は、「イベントやお祭りに参加することが多いまち」が 88.7%。「地震や台風への対策ができていくまち」そして「ごみの減量やリサイクル活動が活発なまち」が同率で 88.1%となっています。

続いて、「まちなみが美しいまち」、「昔からの行事や建物などを大切にしているまち。」があげられており、主にまちへの愛着度に繋がる分野での発展へ期待を寄せていることがわかります。



3. 三豊まちづくりカフェ(市民会議)

市民や市内への通勤・通学者など約 40 名にご参加いただき、三豊まちづくりカフェ(市民会議)を 2018 年 1 月に開催しました。

まちの誇りや強みなどを改めて確認するとともに、10 年後の本市の姿を想像し、弱みを解決しつつ、目指すべき魅力ある市の将来像について、お互いに自由な発想で話し合っていました。



皆さんが思う自慢できるまちの魅力は、「心を豊かに育む自然」、「豊富な食べ物」、「人の温かさ」であるとの声が多く、また「災害の少なさ」、「生活するのに便利が良い」など住みやすいまちであるという印象を抱いていることがわかりました。

その一方で、将来的には人口減少・少子高齢化の影響により、「各産業における人手不足」、「耕作放棄地の拡大」、「空き家の増加」などが今まで以上に広がる懸念が意見として上がりました。

まちづくりカフェの場で「いま」を再確認し、思い描かれた「みらい」の三豊市は、「仕事」、「子育て」、「教育」などのキーワードを中心とした若者が暮らしやすいまちであること、「健康」、「伝承」、「支え合い」を通じて高齢者が元気に暮らすことができるまちであること、三豊ならではの「自然」、「人」、「文化」を残し、伝えていくことができるまちであること。

この将来像を目指して、さらに魅力を成長させるためのまちづくりが求められています。



4. ビッグデータから「いま」を知る

従来扱うことが困難な程に膨大で、多種多様かつ更新頻度の高いデータの集合体を「ビッグデータ」と呼びます。この「ビッグデータ」の活用により、地域の現状を詳細かつリアルタイムに分析することが可能となり、地域課題の解決に向けて効果的な施策の立案・実行・検証を進める上で役立つと言われています。

ここでは、「地域経済分析システム（RESAS：リーサス）」によるデータをもとに、三豊市の「いま」を確認していきます。

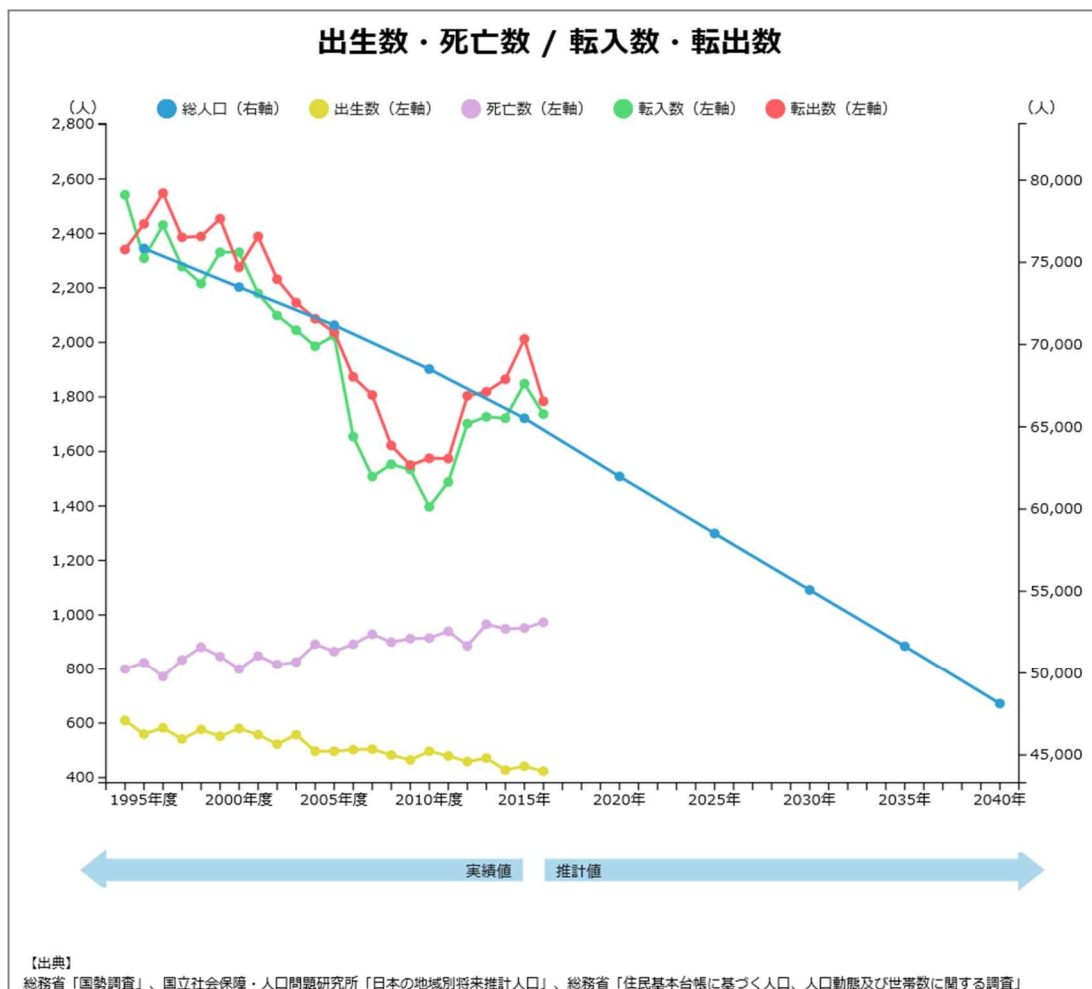


【地域経済分析システム（RESAS：リーサス）】
地方自治体がそれぞれの地域の強み・弱みなどの特性を踏まえ、データに基づく目標を設定するために、まち・ひと・しごと創生本部事務局が産業構造や人口動態、観光の人の流れなどに関するビッグデータを集約し、可視化するシステム。

(1) 出生・死亡（自然増減）と転入・転出（社会増減）の推移と人口推計

三豊市では、ゆるやかに出生数が減少し、死亡数が増加したことによる大幅な自然減が続き、また、転入・転出はともに減少し、転出が転入を上回る社会減となっています。

この自然減と社会減により、総人口は今後も減少傾向にあると予想されています。



(2) 地域別にみた流入者数・流出者数(通勤者・通学者)

市外から三豊市内へ通勤・通学する人(＝流入者)と三豊市内から市外へ通勤・通学する人(＝流出者)について地域別に見たデータです。流入者・流出者ともに県内の近隣市町が中心となっています。しかし、多くの市町で流出者数が流入者数を大きく上回り、全体として流出者の方が約 1.5 倍多いという結果が出ています。つまり、三豊市内には、通勤や通学の都合で市外へ出ている人が多いということです。

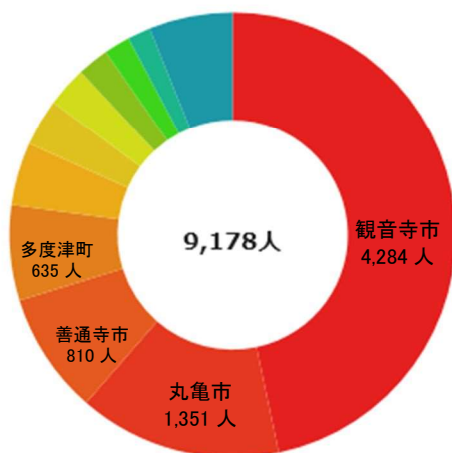
流入者数・流出者数の地域別構成割合

2015年 香川県三豊市

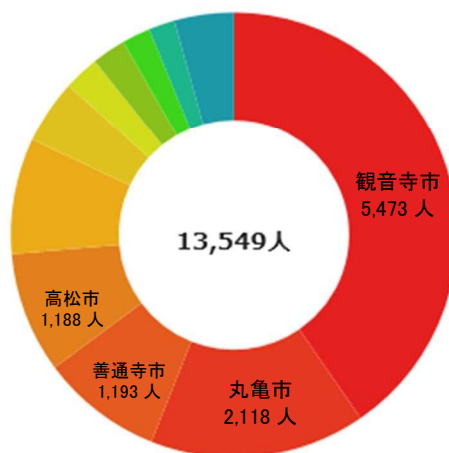
通勤者・通学者

流入者数：9,178人
流出者数：13,549人
(流出超過数：4,371人)

域内への流入者数



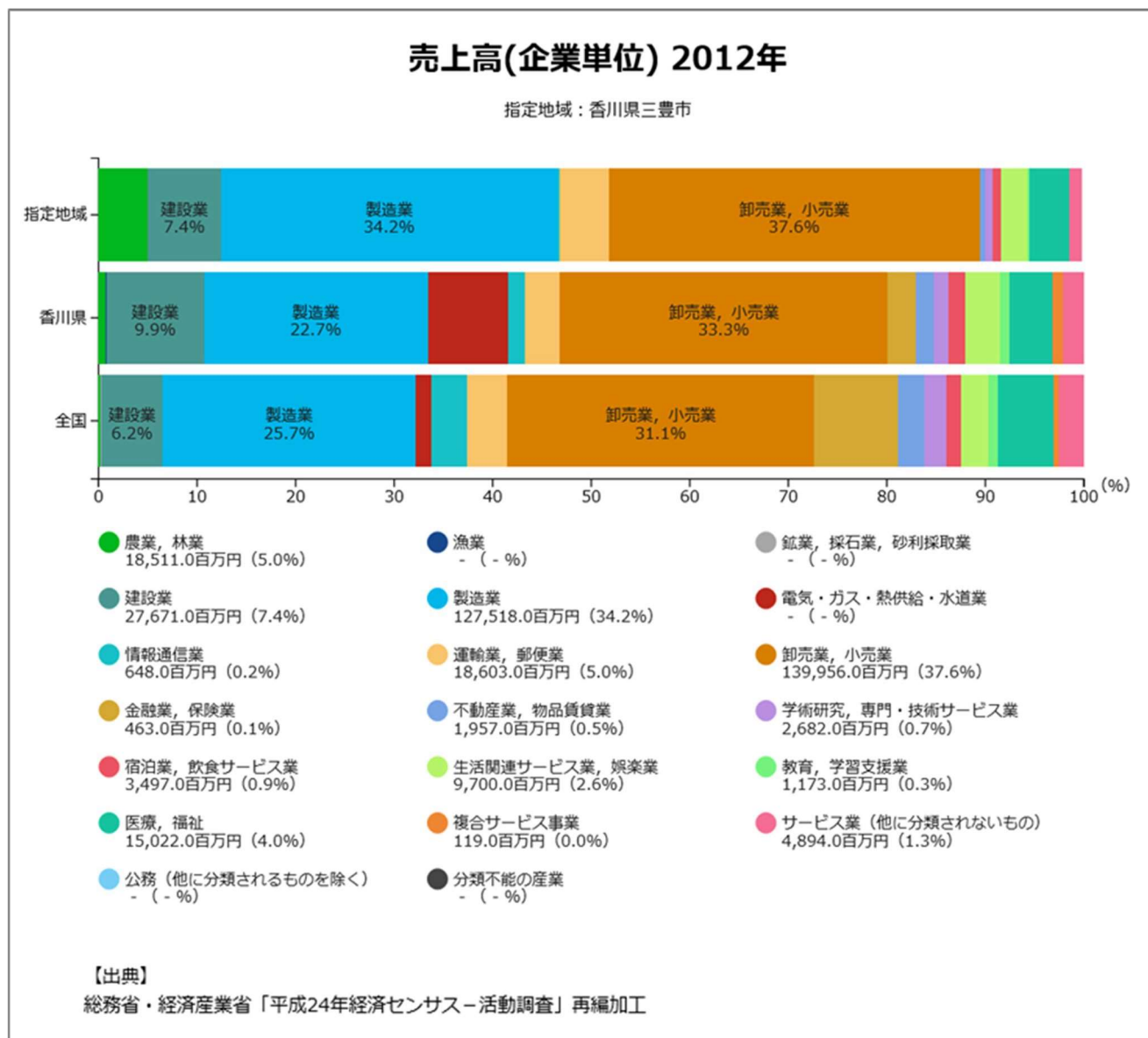
域外への流出者数



(3) 業種別売上高

三豊市における業種別売上高のうち、製造業と卸売業・小売業がそれぞれ全体の30%以上を占める中、農業の占める割合が県内平均や全国平均と比較しても大きく、本市の基幹産業のひとつであることがわかります。

一方で、サービス業については、県内平均や全国平均と比べて売上の割合が小さいことも確認できます。



現在のまちづくりにおいては、施策の方向性やその効果などの明確な提示により、行政だけではなく、地域全体での意思決定が不可欠となっています。

今後、ビッグデータを始めとするさまざまなデータを効率的・効果的に収集し、活用することで、客観的データに基づく分析・検討を通じて、「いま」を見つめ、「みらい」をつくっていくまちづくりを進めます。